

# 事務事業評価表

○基礎情報

課名		社会教育課	作成責任者	常勤職員		常勤職員以外		総従事者	時間外勤務時間		
施策目標	5	自分を見つめ、地域を見つめる社会教育と文化財保護を推進する	瀧田美穂	管理職	左記以外	再任用短時間	会計年度任用職員	派遣職員	総人工	総時間	一人あたり月平均
				1 人	11 人	1 人	25 人	0 人	25.66 人	2,760 時間	20.9 時間

## 1 施策指標と実績(Do)

施策指標名	4次実施計画の現状値	目標値(R2年度)	実績値		
			H30年度	R元年度	R2年度
社会教育事業・イベントの参加者数	48,282人	50,000人	48282	42918	
文化財の指定件数	43件	49件	45件	45件	45件
地域教育懇談会の参加者数	451人	480人	388人	62人	0人

(施策のねらい)

1	家庭教育・幼児期の教育の支援
2	地域の教育力の向上
3	効果的な社会教育の推進
4	地域の学習拠点としての公民館の充実
5	文化財の保護・活用
6	教育力の向上

(評価の見方) S 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果があがった A 事業の指標は達成できなかったが、成果はあがった B 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果は今後見込める  
C 事業の指標は達成できなかったが、成果は今後見込める D 事業の指標を概ね達成したが、成果は見込めない E 事業の指標を達成できず、成果も見込めない  
Z 未着手事業(計画していたが未実施に終わった) 実績なし 事業実施の体制は整えていたが、実績がなかった(実施計画期間中で当該年度は実施予定のないものを含む)

## 2 政策的事業の実績(令和2年度)

事務事業の取組結果と成果(効果) (Plan / Do)													Check		Action	
No.	事務事業 (第4次実施計画)	施策	従事者数	会計区分	R元予算(円) R元決算(円)	R2予算(円) R2決算(円)	何・誰に対して どう働きかけた結果 (対象) (手段・方法) となったか(生まれた成果・効果)	事務事業の指標	R2目標値	R2実績値	評価	取組時間	事務改善	休・廃止		
1	(仮称)歴史文化交流館整備事業	5	1.45	一般繰越	8,713,000 8,544,000	903,278,000 728,416,922	(仮称)歴史文化交流館の整備に向け、建築工事・電気設備工事・機械設備工事に着工した。また、併せて展示収蔵製作業務委託を発注し作業を開始した。	(仮称)歴史文化交流館整備事業の推進	建築工事、展示収蔵製作	建築工事、展示収蔵製作	S	増加				
2	市指定重要文化財旧和田家・旧三橋家保存整備事業	5	0.93	一般	28,858,000 0	69,178,000 65,112,600	旧和田家住宅の耐震改修工事を行った。旧三橋家住宅の耐震改修設計を行い、保存環境の改善及び電気設備の修繕を行った。	保存整備事業の進捗状況	旧三橋家・旧和田家の改修工事	旧和田家の改修工事	A	増加				
3	旧藤間家文化財保存・管理事業	5	1.34	一般	3,191,600 3,190,394	3,266,000 3,253,042	旧藤間家住宅を適切に管理しつつ、新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら、公開普及に取り組むことにより、市民が文化財に親しむ機会を創出した。	社会教育事業の実施回数	年2回	年0回 ※コロナ禍のため中止	A	変動なし				
4	下寺尾遺跡群保存整備事業	5	2.29	一般	91,098,000 18,165,253	108,026,000 50,205,688	史跡発掘調査を実施し、官衙関連遺構等の文化財を確認し、史跡整備のための資料を収集した。遺跡を後世に継承するための保存事業として、史跡の追加指定及び指定地の公有地化を実施した。	適切な保存管理、活用整備の推進	第2期整備検討、工事、用地取得、発掘調査	史跡追加指定、用地取得、発掘調査(整備に向けた資料収集含む)	A	変動なし				

5	ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業	5	0.47	一般	664,000 629,832	507,000 426,553	新型コロナウイルスまん延防止を図るため、集会形式の講座を中止したが、市民と協働でオンライン上で企画展を実施し、自宅等でも茅ヶ崎の魅力を発見できる機会を提供した。	ちがさき丸ごとふるさと発見博物館講座の実施回数	年2回	年0回 ※コロナ禍のため中止	Z	変動なし		
6	文化財保護思想の普及啓発	5	0.98	一般	340,000 326,183	45,000 15,000	新型コロナウイルスまん延防止を図るため、無形文化財や文化財全般に係る保護思想を次世代に継承することを目的とした郷土芸能大会及び文化財講演会を中止した。新たに市指定重要文化財を1点指定した。	郷土芸能大会の来場者数	450人	0人 ※コロナ禍のため中止	Z	減少		
7	遺跡調査資料整理・活用事業	5	4.66	一般	4,295,000 4,205,050	5,926,000 5,330,918	新型コロナウイルスまん延防止を図るため、前年度市内で行われた発掘調査及び史跡発掘調査について発表要旨による紙上発表と発掘担当者の解説動画公開を実施し、市民が埋蔵文化財に親しみ理解する機会を創出した。	遺跡調査発表会の来場者数	170人	0人 ※コロナ禍のため紙上発表形式に変更	A	増加		
8	文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財補助	5	0.00	一般	12,209,000 12,209,000	0 0	公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団が、令和元年度末で埋蔵文化財事業を終了したため実施しなかった。	遺跡調査展示会の入場者数	600人	0人	実績なし	-		
9	社会教育講座の実施	3	0.66	一般	136,000 73,640	157,000 70,190	新型コロナウイルスまん延防止を図るため、集会形式の講座を中止したが、新たに社会教育講座の動画配信を実施し、ポータルサイトを整備することにより、市民に対してコロナ禍においても学びの機会を創出することができた。	研修回数	年3回	年5回(動画配信: 9,692回再生)	S	増加		
10	社会教育関係団体への支援	3	0.24	一般	208,000 163,600	208,000 12,780	コロナ禍により、団体活動が縮小されたことに伴い、茅ヶ崎市婦人団体連絡協議会のための交付となったが、交付により、団体における連絡調整会議において、会員の情報交換が図られた。	支払時期	6月	6月	C	減少		
11	PTA研修会の開催	3	0.00	一般	90,000 60,000	80,000 0	新型コロナウイルス市内感染のまん延防止を図るため、集会形式の研修を実施できなかった。	研修回数	年2回	年0回 ※コロナ禍のため中止	Z	-		
12	地域教育講演会・懇談会事務	6	0.39	一般	0 0	20,000 0	新型コロナウイルス市内感染のまん延防止を図るため、予定していたネット犯罪などSNS等の安全利用に関する講演及び意見交換会について、関係機関と協議のうえ、中止とした。	地域教育講演会・懇談会の開催回数	10回	0回	Z	減少		
合計					R2予算(円)	1,090,691,000								
					R2決算(円)	852,843,693								

人工・事務事業費・事務事業指標達成度の結果にかかる分析(Check) / 今後の展望(Action)	
社会教育課の「2 政策的事業の実績(令和2年度)」については、社会教育課の事業数は、12事業である。これらを指標の達成度及び事業の実施効果から見ると、評価については、「S」2事業、「A」4事業、「C」1事業、「Z」4事業、「実績なし」1事業となり、取組時間については、削減を目指して作業の効率化を進めているところではあるが4事業が増加した。	
No.1については、建設工事着工及び展示収蔵製作を開始しており、進捗している。No.2については、旧和田家住宅の耐震改修工事の改修を完了した。また、旧三橋家住宅については、耐震改修設計は行ったものの事業見直しにより、保存環境改善及び電気設備修繕に留まったため、今後に課題を残すこととなった。No.3については、管理運営と公開を始めて3年目となり、市民に公開普及の機会を創出することを予定していたが、新型コロナウイルスまん延防止を図るため、中止となったため「C」評価としている。No.4については、史跡下寺尾下寺尾官衙遺跡群および史跡西方遺跡の二つの重なり合う国指定史跡を対象に事業を実施した。史跡整備事業は平成30年度に国の指定を受けた史跡下寺尾西方遺跡も含めた資料収集を行っているが、史跡内の調査や公有地化、史跡指定地追加といった成果が得られていることから「A」評価としている。	
No.5、6、7、9、11については、新型コロナウイルスまん延防止を図るため、集会形式の事業等を中止した。No.5については、講座の実施回数0回となっているが、新たなホームページの整備やオンライン企画展などに取り組んだため、取組時間は変動なしとなった。No.7については、従来と異なる形式での活用事業に取り組んだ結果、取組時間が増加した。No.8については、茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団が令和元年度末をもって埋蔵文化財事業を終了したため、「実績なし」となった。茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団が実施していた事業は、市が引き続き実施している。No.9については、集会形式に代わる手法として、動画配信講座を始めると共に、動画配信講座ポータルサイトを立ち上げるなど、オンライン講座に係る仕組みの構築を図ったため、取組時間は増加となった。	
なお、事業全体においては、大規模な事業である博物館建設やコロナ禍において制限がある中、代替手法を用いた事業を工夫して実施するなど、現状の人員で最大限の努力をしている。また、事業手法については、委託や非常勤職員・臨時職員による対応を取り入れて成果を上げている。時間外勤務時間(一人あたり月平均)については、No1(仮称)歴史文化交流館整備事業の進捗に伴う増加があったが、コロナ禍により主催事業が中止となったことにより、結果として元年度と比較し、約5時間の削減となった。	

4 Actionにチェックの入った今年度「事務改善」を行う事業

No.	事務事業(事業がない場合は－)	事務改善の内容
－	－	

5 Actionにチェックの入った今年度「休・廃止」を検討する事業

No.	事務事業(検討事業がない場合は－)	休・廃止検討の理由(1事業も検討できない場合はその理由を記載)
－	－	令和2年度末に、教育基本計画に基づき、適切に事業の統合等を図っており、コロナの状況に応じて事業手法等について検討する必要があると考えるが、現時点では、いずれも必要な事業であり、休廃止は困難であるとする。